



原理原則に基づく「人間学」の 習得が企業強化の原点である

これからの企業経営者に求められるのは、世の中の激変に対応できる柔軟性、先見力、洞察力に加えてコンプライアンス（法令遵守）、ガバナビリティ（企業統治）、アカウンタビリティ（説明責任）だが、その原点には原理原則に基づく「人間学」の習得がある。広島のある企業ではジュニア塾、つばさ塾、根譲塾と言うのがあり、小集団活動とは別にそれぞれ展開している。ジュニア塾は入社3年未満の社員対象、つばさ塾というのは中堅社員対象、根譲塾と言うのは社是が謙譲（自らを控え目にし、相手を立てる精神）と根性（創業の精神を重んじ、粘り強く取り組む心）であり、その二つのことから命名しているが、幹部クラスを対象としたものである。いずれも社長が講師を務めるが、時には外部から講師を呼んで来ることもある。圧巻なのは新渡戸稲造のベストセラー本の「武士道」をテキストにし、日本人が忘れかけている武士道精神を学んだりしていることである。技術・技能の研鑽だけでなく、人間力の育成に力を注いでいるのである。会社は小さくてもいい。挨拶や笑顔やコミュニケーションや顧客満足の面を含めて日本一になれる部分はいくつもある。社長を中心にして社員が一丸となって人間力育成に邁進している姿は、本当に素晴らしい。こういう会社が強い組織を作り、21世紀を切り開いていく原動力になっていくのだと思う。

